

「臨床美術」って何ですか？

香月秀子

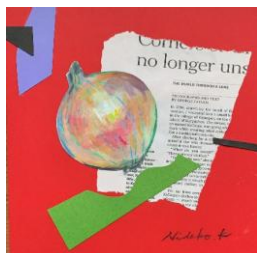
最近、名刺をお渡しすると、「臨床美術ってなんですか？」と聞かれることがあります。「臨床美術」とは何か・・・日本生まれのアートセラピーとも言えますが、世界中で行われているアートセラピーと少し違うかもしれません。よく言われているアートセラピーとは、一般的には「アートサイコセラピー」つまり、箱庭療法やロールシャッハテストなどのように、対象者が作ったり描いたりしたものから、その状態を分析して診断するというようなものを指しています。しかし、臨床美術はそうではなく、制作活動そのものを楽しむことで、心が癒されたり、元気になったりするというものです。この臨床美術は、1996年に、彫刻家であった故・金子健二氏が、医師らとチームを組んで、高齢者の脳機能などに有効なアートプログラムを開発し、認知症の症状などが改善されることを目的として生まれました。

臨床美術では、まず描いたり作ったりする対象を感じ取ることから始めます。例えば、リンゴを描くプログラムでは、リンゴを触ったり、香りを嗅いだり、切って食べてみたりするなど、諸感覚を総動員してリンゴを感じます。それから臨床美術士の声かけにより、絵を描き進めていきます。完成すると、鑑賞会を行い、その人の感じ方で作品のよさを見つけていきます。その人がどんな気持ちで描いていたか、また出来上がった作品を見て、あらためて思ったことなどをお互いに伝えあったりもします。臨床美術士や周りの人とのコミュニケーションの中で、受容と共感を得、表現する喜びを感じながら取り組むことができます。

臨床美術は、もともと認知症に対するアプローチとして開発されたものですが、今では、障害の有無を問わず、全ての年齢の方々に取り組んでもらえる、脳を活性化させるプログラムになっています。絵を描くことや物をつくることに対する苦手意識のある方も多いと思いますが、臨床美術では上手い下手など評価をする必要がありません。どの作品にもそれぞれのよさがあり、素晴らしいものだからです。臨床美術は、色を感じて描いたり、つくったりする活動も多く、色彩教育にもつながると思います。

このように、『諸感覚の刺激』と『リラックスできるコミュニケーション』によって、感性が目覚め、心が解放されることはもちろん、生きる意欲もわいてくる・・・それが臨床美術です。

私は、この臨床美術を通して、感性が喜び、心がワクワクする体験を、多くの人たちに届けていきたいと思っています。



臨床美術の作品例

日本臨床美術協会 URL
<https://arttherapy.gr.jp>

香月秀子（臨床美術士、日本色彩教育研究会理事）

今回のトピック 絵本の窓から世界を見る

第11号では、「絵本の窓から世界を見る」というテーマで絵本学会の理事(会長代理)も務めておられる穴澤秀隆さんをお願いしました。穴澤さんには色いろサロン第11回にもご登壇いただき、トピックについてお話しいただく予定です。

「あおくん」とは誰か ―グラフィック絵本の誕生―

穴澤 秀隆

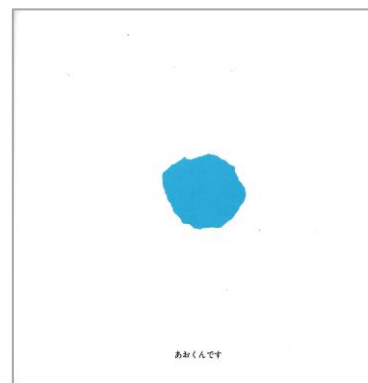
「あおくんです」 レオ・レオーニの絵本『あおくんときいろちゃん』（原書初版：1959年／日本語版：1967年）の1ページ目、書かれているのは、この一言。そしてライトブルーの丸ひとつ。「あおくん」とは誰か、ブルーの丸が示すものは何か、わからない。でも「あおくん」と書かれているのだから、とりあえず納得する。いいや、納得はしない。そうなのかと受け止めるだけ。この問答無用の状況こそが、グラフィックな絵本の誕生だった。

絵本とは、書籍という形態をもった絵画（視覚表現）と文芸（言語表現）の融合した表現ジャンルだ。けれども、このような視覚的な表現が否応なく目に飛び込んでくる絵本は、1960年代以前にはなかった。童話や児童文学の出店のようなものとして絵本は見做され、あるいは読書体験の入り口として、教育的に扱われてきた。

他方、絵本には極力言葉を削ぎ落としているものが多い。中には全く言葉のない絵本もある。それゆえ絵本は言語を超えて、世界に呼びかけることができるメディアとしての可能性をもっている。



「あおくんと きいろちゃん」
レオ・レオーニ／作
藤田圭雄／訳
至光社



「あおくんです」



プロフィール
穴澤秀隆(アナザワ ヒデタカ)
美術教育雑誌「美育文化」元編集長、國學院大學栃木短期大学非常勤講師、
日本色彩教育研究会理事、絵本学会理事(会長代理)・第28回絵本学会横浜大会事務局
局長。
研究分野は、戦後民間美術教育運動、造形遊び、絵本の造形教育への活用など。

会員リレーコラム

にじみ絵の色彩体験

ーシュタイナー理論をもとに、大人も子どもも、ひとりの表現者として創造する場ー

長野県の山麓にある公園で、全身を使ってにじみ絵のワークショップをしました。このWSの特徴は、親子で参加しつつも大人も子どもも一人の参加者として、別々に制作参加すること、そしてシュタイナーのにじみ絵の理論をアレンジしていることです。そのため色彩の感覚を全身で体験することをテーマとしています。参加者もシュタイナー教育について事前知識や勉強会で触れている方もいます。滲んでいく色彩の感覚を肌感覚で楽しめるよう梅雨に開催します。このイベントでは晴れてもよし、雨はなおよし。自然に囲まれマイナスイオンたっぷりの雨が降り、しっとりとした空気感の中で、心も体も絵の具と共に溶け出していく感覚を味わいます。



全身でドリッピングにじみ絵をする参加者

前沢 知子（マエザワ トモコ）
美術家・教育学博士・共栄大学専任講師・
子ども＆親子の絵画教室代表

<https://www.maezawatomoko.com/>

第10回色いろサロンを開催しました

2025年3月28日（金）に、第10回となる『色いろサロン』を開催しました。「カラスクールの現場からPart2 時代によって変化するニーズに対応する授業の現場」をテーマとし、吉川京子さんにお話しいただきました。

<参加者からのご感想>（一部抜粋）

『具体的にアクティブラーニングを取り入れながら、今の若い人たちに「いかに、わかりやすく伝えられるか」を創意工夫されている様子がよくわかり、とても勉強になりました。』

『幅の広い画期的な学びを、企業の社員やまたは企業のお客様向けのサービス、学生様向けなど必要に応じて受けることができるということが、現代にマッチしていると思いました。』

『具体的に現場でされていることをご紹介いただいて参考になりました。パーソナルカラーは色のお守りという言葉が印象的でした。』

第11回は7月25日（金）20時より開催予定です。たくさんのご参加、お待ちしております。

Color Circleのバックナンバーはこちら（PDFでダウンロードできます）

http://shikikyo.jp/backnumber/color_circle_01.html

オンラインセッション 第11回『色いろサロン』のご案内

Color Circleで取り上げたトピックに関連するオンラインセッション『色いろサロン』の第11回を開催いたします。今回はテーマを『絵本の窓から世界を見る』として、執筆者の方に話題提供をしていただきます。

『色いろサロン』では、登壇者の方へのご質問はもちろん、参加者同士で意見交換を行い、会員同士の交流ができる場にしていきたいと考えています。

視聴のみのご参加も大歓迎です。会員の皆様、並びに本研究会にご関心のある方々、奮ってご参加ください。

●日時：2025年7月25日（金）20：00～21：00

●方法：ZOOMによるリアルタイム配信

●オンライントークの会の流れ

・Color Circle vol.11のトピック執筆者によるお話

穴澤秀隆さん

名取初穂さん（司会）

・トピックに関する質疑応答

・参加者全体、またはグループに分かれての意見交換

●参加費：

本研究会会員の方・・・無料

一般の方・・・1,000円

非会員のうち、学生で会員の紹介がある場合は無料

参加申込と同時にご入会いただいた場合は無料

●参加費のお振込先：

「郵便振替」「銀行振込」のいずれかよりお願いいたします。

郵便振替：00150-6-136277 色彩教育研究会

銀行振込：ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 136277 色彩教育研究会

●お申し込み方法：以下のGoogle フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/AuZcpZjYkrwXftpR6>

参加申込・参加費納入期限：2025年7月23日（水）

⇒7月24日（木）にZOOMのURLをお送りいたします。

※sikisaikyoiku@gmail.comからのメールが迷惑メールに分類されないよう、
設定をお願いいたします。

※7月24日中にメールが届かない場合は、恐れ入りますが、事務局まで
ご連絡をお願いいたします。

★こんなことを聞きたい、質問したい！等のご要望は、ぜひお申込フォームに
記載をお願いいたします！

お問い合わせ先：日本色彩教育研究会事務局（sikisaikyoiku@gmail.com）



日本色彩教育研究会HP <http://shikikyo.jp/index.html>

発行人：茂木一司

製作：Color Circle編集委員会

（名取初穂、島田由紀子、手塚千尋、中島千絵、宮野周、大内啓子、佐々木三公子）

